

第4回秋田市雄和地域公共交通研究会議事録

開催の日時 平成21年2月28日(土)午前10時から12時まで

開催の場所 雄和公民館 1階大会議室

委員の定数 18名

出席委員 14名

議 題 (1) グループインタビューの実施結果について(報告)
(2) 雄和地域の代替交通について
(3) 今後のスケジュールについて

事 務 局 開会の言葉

事 務 局 アドバイザー委員の紹介 秋田大学木村教授を紹介する、大滝アドバイザー委員の代理として秋田運輸支局佐藤企画運輸専門官を紹介する。また、代替運行案の共同提案者秋田大学日野准教授を紹介する。

会 長 挨拶

議事に入る、「(1)グループインタビューの実施結果について(報告)」と「(2)雄和地域の代替交通について」および「(3)今後のスケジュールについて」を協議していく。
早速議事に入る。まずは、去る1月に実施された「(1)グループインタビューの実施結果について」報告願いたい。

事 務 局 「(1)グループインタビューの実施結果について」を説明する。

委 員 私も川添小学校学区で開催されたグループインタビューに参加したが、広い学区の中において、参加者が本田と鹿野戸町内に偏っていたので、果たしてその実施の効果はどうか。
今後、当日参加していない町内の住民から意見聴取はするのか。

事 務 局 現時点では、予定はない。

委 員 グループインタビューは誰がどのような目的で実施したのか。
周知方法が悪かったのではないのか、住民の意見をもっと広く聞く方法を考えられなかったのか。

事 務 局 準備不足であった。
今後実施する場合には、その点を含めて検討することとしたい。

委 員 グループインタビューを実施しなくても、この地域でどういう交通体系が望ましいかは各委員がご存じのことと思う。
この研究会で議論を重ねることによって、いずれは結論が出せるはずであるので、この先は各委員の英知で代替交通を決定していきたいと考える。
アンケートなどには頼るべきではないと考える。

会 長 次に、「(2) 雄和地域の代替交通について」に入る。
資料は前回第3回に提出した資料を使用することとする。
復習の意味で再度説明していただく。

准 教 授 第3回研究会における提案内容を簡単に説明する。

委 員 バス路線がなくなることを川添小学校の学校関係者は非常に心配していた。
現在利用している北循環線についても、学年や曜日によって利用する時刻が異なることや必ずしも全員が毎日利用する訳ではないので、代替交通の運行について、児童の利用状況を的確に掌握できて、曜日毎に運行時刻を設定できるのかどうかを心配しているようである。

事 務 局 1日5～6回程度運行する予定であるので、対応できるよう努力する。

委員	よろしく願います。
専門官	現行制度では、バス路線は1か月前に届出することで廃止が可能である。それまでは、まだ時間があるのだが、皆さんはまずバス路線の廃止ありきで代替交通を議論しているようであるが、それで納得しているのか、別の選択肢として、運賃を値上げすればバス路線を廃止しなくても対応が可能かもしれないのではないのか。まずは、その点をはっきりさせてから議論したらいかがか。
事務局	バス路線を廃止するか否かはバス運行事業者が決定する事項である。バス運行事業者が運行をこれ以上継続できないと判断したため、9月末日をもって廃止すると申し出たものであり、市としては空白域にできない地域については、代替交通を検討してきたところである。
専門官	秋田県の県南地域での話であるが、平成22年度実施予定となっている秋田県の補助制度改正に伴い、路線を維持することとすれば、必然的に運行事業者の負担額もしくは市町村の負担額が増えることとなる。両方で話し合った結果、双方とも負担に耐えられないと判断し、バス路線を廃止することになったのだが、秋田市はもっとバス運行事業者の立場を理解して、代替交通の話を進めてほしい。
委員	雄和地域のバス路線について、昨年2月の段階では、秋田駅から雄和市民センターまでの雄和線は存続し、ユーグルだけ廃止したいとする考えであった。しかし、ユーグルだけを代替交通の対象とすれば、その維持が困難になるかもしれないため、地域全体の路線維持に支障が出ると判断した結果、市と再度協議行ない、雄和地域全体の代替交通を検討した方が望ましいと結論づけ、雄和線も廃止することとし、路線バスは御野場団地と御所野を結ぶ線までの運行とすることにしたものである。
事務局	しかしながら、平成16年度の郊外部の委託運行の計画段階で、雄和線とユーグルをはじめとした15路線の路線廃止に伴う委託運行は既に計画していたものである。
委員	住民の目線に立った話をさせていただければ、市が雄和中学校のスクールバスを運行することにより、税金を投入している一方で、家族送迎で通学している生徒も多い。また、地域内の高校生のほとんどは四ツ小屋駅などまでの家族送迎が中心となっていることを考慮すれば、節減できるところは節減することが必要であり、市で策定している交通政策ビジョンについては、そのような考え方を取り入れる必要があるのではないだろうか。つまり、代替交通を検討するにあたり、不要な時刻を継続運行するのではなく、運行本数も減らすなどして、将来にわたって持続可能な方法をとることも視野に入れた方がよいのではないのか。
委員	おとといの26日の会議において承認された、郊外部の運行維持の対応については、NPOなどの団体の設立を支援し、助成を行うこととしている。
委員	中央交通が撤退するのではなく、秋田市が策定したビジョンに従って事業を進めているのなら、それはそれでいいのかもしれない。
会長	今後の事業計画が代替案の議論に重要であると考えてるので、「(2) 雄和地域の代替交通について」に入る前に、「(3) 今後のスケジュールについて」の説明をお願いしたい。
事務局	「(3) 今後のスケジュールについて」を説明する。
専門官	その日程で本格運行するとすれば本当に余裕がない、10月から本格運行するのではなく、試験運行とすれば認可方式が異なるので、多少余裕が出るが、基本がまだ決まっていない状況であることを考慮すれば、今後の実施までには、さらなる困難が予想される。
委員	私は大正寺小学校学区で開催されたグループインタビューに参加したが、その中で、バス路線は廃止になるとか代替交通の経路や値段は今後検討することになるなど、市からある程度の説明があったため、研究会において議論す

	る検討方向を理解できたところである。
事務局	グループインタビューは基本的にはフリートーキングとすることとしたが、たたき台がないと話が進まないと判断して、前回提案した案A-2を当日持参したものである、車両の種類は態様によって異なるので未決定であるが、必要な台数は必ずそろえると説明してきた。
委員	現在のユーグルでも日中の運行間隔が3時間ぐらいある時間帯もあって、会議等の時刻に不都合となることも多い。 予約式にして、都合のいい時刻に運行できるのなら、待ち時間が長くなるのが解消されるのではないのか。 また、乗り換えは待ち時間が発生して不便なので、極力直通運行していただきたい。
事務局	現在運行しているマイタウン・バス北部線は予約式でもあっても、あらかじめ運行時刻は設定している。
委員	湯野目地区と下黒瀬地区はマイタウン・バス西部線豊岩線が運行しており、それとの路線再編が可能であれば、支障がないと判断し、提示された3案は経路としては同一であり、これでいいのではないだろうか。
委員	問題は様態である。現在ユーグルが運行されている地区を全部回ることが出できて空白域が生じない予約式がいいのではないのか。
委員	バス路線方式と予約式を併用することで、地域内全部の移動手段を確保した方がいいのではないのか。
委員	雄和市民センターをはさんで利用人数が大きく異なるので、コースを分割したらどうか。
委員	至極単純であるが、ユーグル導入前のバス路線の経路が一番いいのではないのか、利用区間によっては乗り換えることによる待ち時間が生じるがそれはやむを得ない、がまんすべきである。 まずは図の太線区間である幹線をきっちり守るべきである。
委員	私が利用している路線バスは枝線部分の藤森町内を経由するが、利用者が乗降するのを見たことがない。
委員	幹線経路と枝線区間の予約が必要な町内を含めて、ユーグルが運行している場所を網羅できる案A-2の定時定路方式でいいのではないだろうか。
委員	運行本数は4～5本程度でもいいので、車両はジャンボタクシーではなく、マイクロバスで運行してほしい。
委員	乗り換え点として、御所野とするのはどうなのか。 現在の雄和線は牛島を経由して秋田駅西口まで運行されており、なじみは薄いと考える。 しかしながら、現在発展しているのは秋田駅の東側であるので、西口行きのバスとの接続にこだわる必要はないのではないのか。
委員	今後の予定では5月に代替案を決定し、7月に申請することとしているが、運行事業者の都合で内容を変更することは可能か。
専門官	秋田市地域公共交通協議会バス路線再生分科会で承認を得た態様と異なる申請を運行事業者が行うことはできないことになっている。
委員	幹線バスの方向性はある程度見えてきたが、川添小学校の通学コースはこの図では電話予約の地区が多くなっているが、本当に対応は可能か。 また、戸米川小学校や種平小学校の通学への対応も考慮する必要があるのではないのか。
事務局	時刻設定の際は考慮するよう今後検討していきたい。
委員	下校時の対応もお願いしたい。

委員 ダイヤ編成の際に考慮する。

会長 公共交通とスクールバスを一体化してやっている都市もあると聞く、秋田市でも一本化を実施できれば当然いいはずである。

委員 私は本田町内に住んでいるが、本来、本田橋が通行可能であれば、隣となる末戸松本町内までは自家用車で2～3分程度で行けるのだが、新しい橋が完成するまではこれから4～5年かかると聞く。
よって、現在の雄和線はバイパスを迂回運行しているのだが、その結果経路からはずれているこの町内では路線バスを全く利用できなくなっており、小中学校への通学に不便を来しているの、何とかならないものだろうか。
また、この町内の通学を考慮した場合には、四ツ小屋小学校と御野場中学校であるので、乗り継ぎ点は御野場とした方が都合がいいのではないのか。

委員 AコースとBコース間で乗り換えがスムーズに行くのか。

事務局 基本的に、上りの始発である萱ヶ沢と神ヶ村の2方向から出発し、1箇所目の大正寺連絡所にはほぼ同じ時刻で到着し、相互間で乗り換えをする。その後は、それぞれのコースを運行し、2箇所目となる雄和市民センターに到着後、相互間で乗り換えをすることを想定している。
AコースとBコースをまたいで利用する方であっても、現在のユーグルとほぼ同じ利用方法が可能であると思う。

委員 御野場と御所野でどちらが乗り換え点としてふさわしいかの議論をしているようであるが、末戸松本町内の件も併せて考えた場合、3箇所目の乗り換え地点として四ツ小屋駅を設定し、Aコースは御所野行きとし、Bコースは御野場行きとして四ツ小屋駅において相互間で乗り換えすることによって、全員の目的が達成されるのではないのか。
予約式については、そのエリアが広ければ広いほど運行事業者にとっては経費がかかるためうま味がない、ある程度エリアを限定する必要があるのではないのか。
次回の開催までのお願いであるが、資料は当日配布するのではなく、成案を早めに送付してほしい、各委員が検討する時間を多少与えてほしい。

教授 今までの議論を聞かせていただいたが、高齢者の対策も確かに必要であるが、年少者である児童・生徒対策の方が重要であると思う。
各学校の通学区域、時刻などの情報を得ることで、利用者ニーズにもれなく対応することが課題であると思う。

委員 運行本数がどの程度になるのか、学校関係者は早めに知りたがっている。

専門官 町内ごとの人数は新1年生を含めて学校側では情報をもっていると思うので、幹線部分の対応は可能と思う。
問題は枝線部分から利用する方をどのように対応するかであると思う。

教授 小学生の通学対策については、どの時刻にどれだけ利用者がいるのかその需要の把握が必要である。
事務局へお願いであるが、成案を提案するにあたり、次回の資料では実寸の地図に経路を落としたものを使用してほしい。

事務局 了解した。

会長 何か他にあるか。なければこれで今回は終了とする。
- 議事終了 -

事務局 次回は4月上旬に行なうよう準備する。